

## 第4回研究実践奨励賞

### 立教大学 コミュニティ福祉学会 第4回「研究実践奨励賞」選考報告

研究実践奨励賞選考委員会

2018年6月16日（土）に開催された研究実践奨励賞選考委員会にて、第4回「研究実践奨励賞」、通称「まなびあい賞」を以下の2作品に決定しました。

- 1) 中山健二郎氏（コミュニティ福祉学研究科博士課程後期課程2年）  
「鼓動—『田中孝記念立教大学コミュニティ福祉学部と太鼓プロジェクト』陸前高田公演活動報告」
- 2) 清水潤子氏（コミュニティ福祉学科2008年卒業、Asian Services In Action, Inc. Program Assistant）  
「アメリカの難民支援の現場から」

以下、同賞の趣旨を再確認したうえで、今回の選考体制及び選考過程、受賞作品の講評を報告します。

#### 1. 「研究実践奨励賞」の趣旨

「研究実践奨励賞」（まなびあい賞）は、コミュニティ福祉学部の在学生、大学院生、卒業生、修了生の優れた研究もしくは実践を奨励し、卒業生、修了生と在学生の交流を深めるために設けられたものです。

#### 2. 第4回「研究実践奨励賞」の選考体制及び選考過程

2018年5月19日（土）、6月16日（土）に開催された「選考委員会」において、選考対象となる該当作品（第10号掲載の11作品）について受賞作の真摯な検討がなされました。

##### 【選考基準】

まず、選考基準については、概ね前回の選考基準を参考としました。

第一に、研究論文については、学術論文としての完成度に囚われるのではなく、多少粗削りな作品であったとしても、潜在的な発展可能性（ポテンシャルな力）を実感させるものであること。

第二に、実践記録（現場からの報告等）については、「コミュニティ福祉学部のマイルド」を実践していることについて支持や共感ができるものであること。

##### 【選考体制】

次に、選考委員会には運営委員メンバーに加えて、作品選考の公平性を担保するために外部選考委員を1名お願いしていますが、今回は、阪口毅先生（コミュニティ政策学科）に依頼し、受賞作品の選考過程に参加していただきました。

##### 【選考対象作品と結果】

学会の規定により選考の対象となった作品は『まなびあい』第10号（2017年11月1日発行）掲載の中の11作品（＝学生や院生、卒業生が執筆した論文・研究ノート・実践記録・実践報告・現場からの声・在学生＆卒業生の活動報告・リレーメッセージ）です。あらかじめ運営委員を中心に、在学生や卒業生等に依頼し提出された推薦書の集計結果（12の評価項目＆コメント等）も参考にしながら議論をしました。

まず、選考委員それぞれが受賞にふさわしいと考える作品とその理由を報告し合い、次いでどの作品が良いかを議論しました。議論を重ねるうちに、意見が収斂されていき、最終的には多数決で決定をしました。

#### 3. 受賞作品の講評

- 1) 中山健二郎著「鼓動—『田中孝記念立教大学コミュニティ福祉学部と太鼓プロジェクト』陸前高田公演活動報告」については、まさにコミュニティ福祉学部の活動であり、その活動記録であることに意義があると同時に、被災地支援、埼玉県文化保存、本学の近隣地域との交流という、複数の社会的意義を有していること、また、実践活動の報告として活動内容やその活動の意義について、多くの現地の写真と共に非常にわかりやすく記載されていることなどが評価を受けました。
- 2) 清水潤子著「アメリカの難民支援の現場から」については、いま懸案とされる難民支援について、アメリカの支援団体での具体的な支援方法やそのなかでの成果や課題等を具体的に紹介されていること、特に对人的支援の具体的な内容のみならず、年齢や属性に応じたグループやコミュニティでの支援の仕方や課題にまで言及されており、広い視点で支援をみることの大切さを学部生にも伝えられる実践報告であることなどが評価を受けました。

#### 4. まとめ

今回の受賞は、研究論文はなく、実践報告が2つ受賞することになりました。このことについては、若干異議もありましたが、対象となる論文が2つしかないため、それにこだわらないこととしました。特に、在学生・卒業生、教員の交流的な「まなびあい」をねらった学会誌であるので、実践報告が2つでも良いだろうということで落ち着きました。

例年のことですが、選考基準をどうするかから議論が始まりましたが、まだ明確なものになっていません。ただし、多くの選考委員の議論を通して選考しているため、これまでのものも含めて、選ばれた受賞作品はやはりまなびあい賞にふさわしい内容のものばかりです。受賞された中山さん、清水さん、おめでとうございます。